

第7章 古紙リサイクルの進め方

1 古紙の分別区分を理解しましょう

古紙の分別区分は、発生する紙の種類、量によって違ってきますので、古紙回収業者と相談する必要があります。

なぜ同じ紙なのに分別が必要か

回収された古紙は製紙の原料として使われますが、製造する紙の種類によって使用する原料、つまり古紙が違って来るからです。製紙メーカーが利用しやすいように排出段階で分別することが古紙の有効利用につながります。

古紙はこのような紙製品に！

古紙品種名		主な紙品種名	主な紙製品名
段ボール		段ボール原紙	段ボール箱
新聞		紙管原紙	表彰状入れの筒、 トイレットペーパーの芯棒、工業用紙管
雑誌・チラシ カラーコピー、青焼き		建材原紙	屋根下ふき材、石膏ボード
茶模造紙（加工されていない包装紙、紙袋全般）		紙器用板紙	洗剤の箱、菓子箱、 絵本、アルバム等
台紙・地券・ボール（加工されていない包装紙全般）		新聞巻取紙	新聞紙
模造・色上（使用済みコピー用紙や、 クリーム色の色上質紙、簡単な印刷のコート紙）		包装用紙など	軽包装用紙袋
切付・中更反古（印刷された中質紙、 更紙等のわら半紙や、お菓子の箱）		印刷・情報用紙 （中・下級紙）	週刊誌、図画用紙 OA用紙等
上白・カード（未使用のコピー紙や、 簡単な印刷の未使用の連続帳票類）		ちり紙、トイレットペーパー	ちり紙、トイレットペーパー
特白・中白・白マニラ（未使用の中質紙、更紙等のわら半紙や表紙紙）			

※矢印の線の太さは、原料となる割合の大きさを示しています。

2 禁忌品を古紙回収業者に確認しましょう

「禁忌品」とは、製紙の原料として使えないものを言います。使えないだけでなく、禁忌品が混入することで、できあがった紙が製品として価値がなくなったり、製紙工程のトラブルを引き起こしたりします。



禁忌品は取り除くように徹底しましょう

主な禁忌品の例

【再生できない紙】	【紙以外のもの】
窓のついた封筒（窓のフィルムを取り除けば再生可）、ビニールコート紙	粘着テープ、ファイルの金具
紙コップ類（ワックス加工してあるもの）、油紙、写真	クリップ類、フィルム類
合成紙、防水加工紙	発泡スチロール、セロハン
感熱発泡紙、裏カーボン紙、	プラスチック製品、布製品
捺染紙、シールの台紙	ガラス類

3 回収ボックスを設置しましょう

分別区分が決まったら従来のごみ箱に代わる古紙の回収ボックスを設置しましょう。

回収ボックスを設置することで分別の徹底、回収率のアップ、スペースの有効利用につながります。

【選ぶコツ】

- ①十分な容量があり、出し入れが簡単な物を選びましょう。
- ②積み重ねタイプ等、スペースをとらない物を選びましょう。

【設置のコツ】

- ①ごみ箱よりも回収ボックスが身近にある環境をつくりましょう。

個人用のごみ箱をなくし、回収ボックスの横に共用の紙くず入れを設置するとリサイクルが進みます。

- ②投入口には、分別の区分を分かりやすく明記しましょう。



4 機密書類の取り扱い

事業所では特に機密書類の取り扱いが問題になり、リサイクルに踏み切れない場合が多くあります。

まず、最初は古紙のリサイクルの対象からは外し一般の古紙のリサイクルが定着してから機密書類のリサイクルを検討する方が無理なく進むでしょう。

機密書類のリサイクルを進めるために

機密文書の見直し

機密扱いとしている書類の機密性を見直して、できるだけ機密文書を減らしましょう。

機密を保ってリサイクル

- ①製紙メーカーへ直接搬入し、立ち会いのもとに溶解する。
※禁忌品が混入している場合は受け入れを拒否されますので、確実に取り除かなければなりません。
- ②再生可能なシュレッダーを使用する。
※一般にカット幅6mm以上のうどん状のカットであれば再生が可能だと言われています。業者とご相談ください。

①、②いずれの場合も禁忌品が混入していないことが絶対条件です

次のような組織に参加して、古紙リサイクルを進める方法もあります。

【オフィスペーパー・リサイクルかなざわ】

オフィス古紙の分別回収を行うとともに、回収した古紙を原料に再生された製品の購入を行い、地域リサイクルの輪を広げる活動を推進しています。

会員数 106社（平成23年8月1日現在）

年会費 5,000円

問い合わせ 事務局 北陸電力(株)石川支店

西日本電信電話(株)金沢支店

オフィス→ビル管理→回収会社

(分別) (分別) (回収運搬)

↑

紙問屋←製紙会社←古紙問屋

(製品卸) (再生) (古紙納入)

TEL233-8877

TEL220-4380